

2026年度
第2四半期　決算説明資料

長瀬産業株式会社（証券コード:8012）
2026年11月6日 公表

NAGASE
Delivering next.

（代表取締役社長　上島宏之によるプレゼンテーション）

長瀬産業株式会社　代表取締役社長の上島でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、2026年度第2四半期決算説明会を開始させていただきます。

エグゼクティブサマリー

2026年度 第2四半期決算	↗ 売上高および各段階利益において過去最高を更新 ↗ マテリアルセグメントは、中東情勢の影響による市況高騰およびサプライチェーン維持に向けた代替品調達等により増益 ↗ エレクトロニクスセグメントは、AI半導体向け変性エポキシ樹脂の販売が伸長 ↗ ライフサイエンスセグメントは、Prinovaグループの製造業がNutrition事業黒字化により改善 ↗ 売上総利益率が0.9%改善、営業利益率が2.0%改善
2026年度 通期見通し	↗ 通期業績見通しを上方修正（営業利益450億円⇒ 585億円） （下期） • マテリアルセグメントは、旧正月等による稼働日減少および市況下落リスクを考慮し、上期比で減益 • エレクトロニクスセグメントは、引き続きAI半導体向け変性エポキシ樹脂の販売が好調継続 • ライフサイエンスセグメントは、クリスマス休暇等による稼働日減少、製造会社の定期修繕等の影響により上期比で減益 • 一般管理費はオフィス移転等の費用に加え、人件費および研究開発費用等の追加費用を計上見込み ↗ ROEは10.8%、EPSは118.2円となる見込み
特記事項	● 中期経営計画のKGI（ROE、営業利益）に到達する見込みの為、通期実績を踏まえ2027年5月にKGIを更新予定 ● セグメント別ROICおよびセグメント別EBITDAを開示（2025年度実績、2026年度見通し） ● 中国におけるガラス基板の薄型加工事業撤退は今期完了見込み ● 製造事業の収益貢献を適切に反映するため、製造と商社の区分について利益算定方法を変更（ナガセケムテックスグループおよびナガセヴィータ製品の販売に伴う収益を商社から製造へ組み替え）

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

まずはじめにエグゼクティブサマリーです。

第2四半期決算は、各段階利益において過去最高を更新いたしました。詳細は後ほどご説明いたしますが、率の経営を徹底しており、売上総利益率で0.9%、営業利益率で2%向上させることができました。直近5年間で売上総利益率は1.9%、営業利益率は1.8%向上しております。

次に、通期見通しについてですが、第2四半期実績および第3四半期以降の状況を踏まえ、上方修正いたしました。営業利益は450億円から585億円へ上方修正し、ROEを10.8%、EPSを118.2円へ向上させます。

中期経営計画Walk the Talk 2028のKGIを達成する見込みですので、正確な数字につきましては2027年5月に更新をさせていただきます。なお、本日3つの内容について新しく開示させていただいております。

まず1つ目がセグメント別のROIC、2つ目がセグメント別のEBITDA、3つ目が、ナガセケムテックスおよびナガセヴィータのグループ全体での売上高から営業利益の数値となります。

NAGASEの各セグメントを取り巻く事業環境



業界	26年度通期に対する当初想定		26年度上期の動向		26年度下期の動向		セグメント
電機・電子機器	需要及び樹脂市況は前期並み。 OA業界再編によりビジネス機会が増加。		電子部品関係の需要は増加するものの全体は前期並み。樹脂市況は中東情勢により高騰。		需要は上期比で減少。市況は上期比で軟化。		マテリアル
自動車	自動車生産台数は前期並み。		自動車生産における地域ごとの二極化が進んでおり全体として横ばい。		概ね上期並み。		
塗料	自動車用途および建築用途は回復見込めず、全体として微減。		自動車用途および建築用途は、全体として横ばい。		自動車用途および建築用途は回復見込めず、全体として微減。		
半導体	AI牽引で市場拡大も、メモリ不足もありスマホ等の台数減で本格回復は遅れる。中国は好調維持も米中関係警戒。		AI牽引により先端品、汎用品含め好調に推移。中国市場も好調に推移。		概ね上期並み。		エレクトロニクス
スマートフォン	ハイエンドはAI化が進むもメモリ不足が逆風。ミドル・ローを中心に苦戦し、全体でも減少に転じる。		メモリ不足により前期比で大幅に減少。ハイエンドはAI搭載、フォルダブル化もあり微減にとどまるが、ミドル・ローは大幅に減少。		概ね上期並み。		
フード	国内の食品素材は前期並み。欧米は食品素材・ニュートリションともに市場が成長し好調に推移。		国内の食品素材は前期並み。欧米は食品素材・ニュートリションともに市場が成長し好調に推移。		国内外の食品素材は上期並み。欧米はニュートリション市場の拡大トレンドは継続。		ライフサイエンス
香粧品	業界構造の変化は続くが、海外大手の高付加価値化戦略や日系大手の東南アジアシフトが進行し、需要は緩やかに回復。		業界構造の変化は続くが、日系大手の東南アジアシフトが下支えし、需要は概ね想定通り緩やかに回復。		概ね上期並み。		
医薬	先発の外部調達トレンドやジェネリック市場の更なる拡大が継続し、添加剤・原薬等の需要は引き続き堅調。		外部環境は継続。後発企業の生産拠点集約が活発化し、ジェネリック拡大を背景に添加剤・原薬等の需要は堅調。		概ね上期並み。		

・必ずしも業界の動向とは一致しません

・当期より、機能素材・加工材料・モビリティがマテリアル、電子・エネルギーがエレクトロニクス、生活関連がライフサイエンスへセグメント名を変更しています

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

当社を取り巻く事業環境を示しております。

2026年度当初想定から変わっている業界は、塗料業界、半導体業界、スマートフォン業界になります。

塗料業界につきましては、中東情勢の影響を受けまして単価が上昇し、改善しております。
半導体業界につきましては、AI牽引による市場の拡大、製品の販売が順調に進んでおり、こちらも改善しております。

一方でスマートフォンにつきましては、メモリ不足により、2025年度と比較しまして、スマートフォンの生産量が大きく減少、前年比約83%となっており、こちらは悪化しております。当社が販売するSAWフィルター用シート材には大きな影響が出ております。

目次

■ 2026年度 第2四半期決算概要及び通期見通しについて　P5～P18
■ トピックス　P19～P26

＜参考情報＞

所在地別　売上総利益	P29
業態・セグメント別売上総利益　2期比較	P30
業態・セグメント別営業利益　2期比較	P31
売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移	P32
セグメント概況	P33～P35
2026年度　主要製造子会社の業績見通し	P36
主要製造子会社概況	P37～P39

※ 当期より、Prinovaグループの売上総利益と営業利益を「製造業」「商社業」に区分開示しております。前期では未開示だった実績についても、新区分に基づき組み替えて掲載しております。

※ 当期より、セグメント業績管理の適正化に伴い、全社共通費用の配賦方法を変更しました。これに伴い前期比較を可能とするため、前期実績につきましても新基準に基づき組み替えて表示しております。

※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。これに伴い前期比較を可能とするため、前期実績につきましても新基準に基づき組み替えて表示しております。

- 製造はPrinovaグループを除く製造子会社の合計値、Prinovaグループの製造業に加え、ナガセケムテックスグループおよびナガセヴィータ製品の販売に伴う商社の収益を合算した数値となります。
- 商社は全体の合計値から、製造および本部に属する研究開発費を除いた数値となります。
- 本部に属する研究開発費は製造および商社には含めておりません。

※その他・全社に連結調整を含めております。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

目次になります。

右下のアスタリスクに記載している通り、当期より製造および商社の算定方法を変更しております。

ナガセケムテックスグループおよびナガセヴィータの収益につきましては、各社製品の販売に伴う商社の収益を合算した数値としております。また、本部に属する研究開発費は、製造および商社には含んでおりません。

2026年度 第2四半期決算概要 及び通期見通し

■ 連結損益計算書	P6
■ セグメント別営業利益 2期比較	P7
■ セグメント概況	P8～P10
■ 第2四半期（7月～9月）2期比較	P11
■ 連結貸借対照表	P12
■ 連結キャッシュ・フロー計算書	P13
■ 2026年度 通期業績見通し	P14 ～P15
■ 各セグメント 事業別売上総利益	P16
■ 株主還元状況	P17
■ EPSの推移	P18

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

2026年度第2四半期決算概要および通期見通しについてでございます。

連結損益計算書

- 第2四半期において、売上高および各段階利益において過去最高を更新
- 半導体事業の好調およびPrinovaグループの業績改善に加え、中東情勢影響による市況高騰およびサプライチェーン混乱下で顧客対応を確実に実施したこと等により増益
- 数理差異の償却による退職給付費用が減少（22億円の増益）
- 成長投資に合わせ、政策保有株式の売却を実施（特別利益で48億円を計上）

（億円）

	2025年度 2Q累計	2026年度 2Q累計	増減額	前期比	通期見通し（2026年5月公表）	進捗率
売上高	4,797	5,725	928	119%	10,000	57%
売上総利益	909	1,134	225	125%	1,980	57%
<利益率>	19.0%	19.8%	0.9%	–	19.8%	–
販売費及び一般管理費	698	771	72	110%	1,530	50%
営業利益	210	363	152	172%	450	81%
<利益率>	4.4%	6.3%	2.0%	–	4.5%	–
（数理差異の償却による退職給付費用影響除く）	212	342	130	162%	409	84%
経常利益	207	363	156	176%	450	81%
親会社株主に帰属する四半期純利益	150	327	176	217%	345	95%
US$レート（期中平均）	@ 146.0	@ 159.4	@ 13.4	円安	@ 155.0	
RMBレート（期中平均）	@ 20.3	@ 23.5	@ 3.2	円安	@ 22.5	

※ 為替の影響【売上総利益】+54億円【営業利益】+19億円

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

連結損益計算書です。

売上高から、四半期純利益まで過去最高を更新しました。当第2四半期も第1四半期に引き続き、ナガセケムテックスのLMC事業が好調に推移いたしました。また、Prinovaの事業が改善したことに加え、中東情勢の影響によりまして想定以上に好調に推移いたしました。

営業利益は363億円と、進捗率で81%、前年比で172%となりました。利益率も改善が進んでおります。

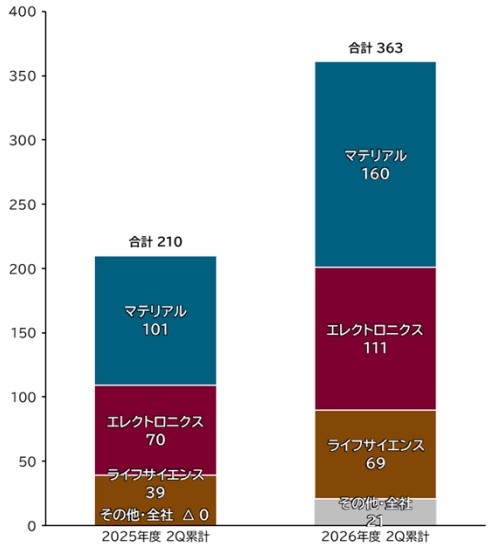
また、成長投資に合わせ、政策保有株式の売却を進めています。第2四半期累計で株式売却により48億円の売却益を計上しております。

為替の影響は、円安により営業利益でプラス19億円となっております。

セグメント別営業利益 2期比較

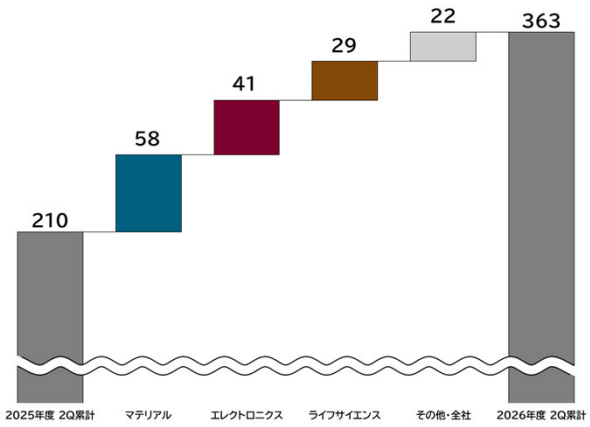
▸ 全セグメントにおいて増益

セグメント別 営業利益(億円)



※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメント別 営業利益 増減(億円)



※ その他・全社における22億円の増加は、数理差異の償却にかかる退職給付費用減少による。(数理差異の償却による退職給付費用:2025年度通期 約3億円(損)、2026年度通期 約40億円(益) 四半期毎に均等按分し計上)

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

セグメント別の営業利益2期比較になります。

全セグメントにおきまして増益になります。詳細は次ページ以降で説明をさせていただきます。

マテリアル

セグメント概況 マテリアル

▶ 売上総利益は前期比86億円の増益。営業利益は前期比58億円の増益
＜製造業＞
・ ナガセルータックは工業用ホース等の販売が増加
・ ナガセケムテックスのエピクロロヒドリン誘導体の販売が3Dプリンティング向けに増加
＜商社業＞
・ 全体として、中東情勢の影響により、市況が高騰局面にあり利益率が向上
・ 化学事業において、代替品の調達によりサプライチェーンの維持に貢献、また半導体向け材料販売が好調に推移
・ 電機・電子機器向け樹脂の販売数量は前期並みだが、プロダクトミックスが継続的に改善
・ 自動車向け樹脂および機能素材・部品の販売は、米国における新規採用等も寄与し、堅調に推移

（億円）

	2025年度 2Q累計	2026年度 2Q累計	増減額	増減率	通期見通し（2026年5月公表）	進捗率
売上高	2,429	2,905	475	19.6%	4,955	59%
売上総利益	371	457	86	23.4%	776	59%
<利益率>	15.3%	15.8%	0.5%		15.7%	
営業利益	101	160	58	57.6%	196	82%
<利益率>	4.2%	5.5%	1.3%		4.0%	
製造	14	19	5	42.2%		
商社	90	142	52	58.3%		

※ 当期より、新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。
※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

セグメント別の概況になります。

まず、マテリアルセグメントです。売上総利益は86億円の増益、営業利益は58億円の増益となりました。

商社業は、中東情勢の影響によりまして、製品単価の上昇に加え、サプライチェーンを維持すべくグループネットワークを活用し、お客様への代替品調達ビジネスが進み、売上総利益、営業利益ともに増加しました。

製造業は、前期に引き続きナガセルータックが工業用ホース、特に半導体製造用が増加し、好調に推移しております。

エレクトロニクス

セグメント概況 エレクトロニクス

▶ 売上総利益は前期比52億円の増益。営業利益は前期比41億円の増益
＜製造業＞
・ ナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂の販売が増加。AI半導体(ロジック・メモリ)向けの需要を確実に取り込む
・ Pac Techグループのバンピング受託サービスが好調に推移
＜商社業＞
・ グレーターチャイナにおける半導体材料の販売が増加

（億円）

	2025年度 2Q累計	2026年度 2Q累計	増減額	増減率	通期見通し (2026年5月公表)	進捗率
売上高	846	1,009	162	19.2%	1,750	58%
売上総利益	218	270	52	24.2%	479	57%
<利益率>	25.8%	26.8%	1.1%		27.4%	
営業利益	70	111	41	58.8%	144	78%
<利益率>	8.3%	11.1%	2.8%		8.2%	
製造	40	68	28	70.4%		
商社	31	44	12	41.1%		

※ 当期より、新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。
※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

次に、エレクトロニクスセグメントです。

売上総利益は52億円の増益、営業利益は41億円の増益となりました。

商社業は、グレーターチャイナの半導体市場への商品販売が好調に推移しています。

製造業は、AI半導体のロジック・メモリ向けにLMCの販売が数量・利益ともに2桁成長いたしました。新製品のa-SMCも先端半導体向け高機能ICパッケージ基板用封止材で採用が決まり、量産が開始しております。Pac Techグループは、マレーシアで行っておりますバンピング受託ビジネスが引き続き好調に推移しています。

セグメント概況 ライフサイエンス

▶ 売上総利益は前期比86億円の増益。営業利益は前期比29億円の増益
＜製造業＞
・ Prinovaグループの製造業はSolutions事業の用途拡大による販売増加に加え、Nutrition事業の黒字化により大幅増益
・ ナガセヴィータは、原材料の価格上昇を海外向け食品素材等の販売増加でカバーし前期並みで推移
・ ナガセダイアグノスティックスは、診断薬、診断薬酵素の販売増加により好調
＜商社業＞
・ Prinovaグループにおける食品素材の販売は増加
・ 中間体・医薬品原料の販売は前期並み

（億円）

	2025年度 2Q累計	2026年度 2Q累計	増減額	増減率	通期見通し（2026年5月公表）	進捗率
売上高	1,520	1,810	290	19.1%	3,294	55%
売上総利益	317	404	86	27.3%	724	56%
<利益率>	20.9%	22.3%	1.4%		22.0%	
営業利益	39	69	29	76.7%	72	96%
<利益率>	2.6%	3.8%	1.2%		2.2%	
製造	12	49	36	292.7%		
商社	27	25	△2	△8.2%		

※ 当期より、新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。
※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

ライフサイエンスセグメントです。

売上総利益は86億円の増益、営業利益は29億円の増益となりました。

商社業は、医薬中間体・医薬品原料が前年並みとなりましたが、Prinovaの食品素材販売は増収となっています。

製造業は、PrinovaのSolutions事業が引き続き好調に推移いたしました。ここ数年課題となっておりましたNutrition事業は、1年前倒しで黒字化を達成しております。前期7月から連結しているナガセダイアグノスティックスは、診断薬および診断薬酵素の販売が好調に推移し、利益に貢献しております。

第2四半期（7月～9月）2期比較

（億円）

	連結合計				マテリアル				エレクトロニクス				ライフサイエンス			
	25年2Q 7月～9月	26年2Q 7月～9月	増減額	増減率	25年2Q 7月～9月	26年2Q 7月～9月	増減額	増減率	25年2Q 7月～9月	26年2Q 7月～9月	増減額	増減率	25年2Q 7月～9月	26年2Q 7月～9月	増減額	増減率
売上高	2,424	2,928	504	20.8%	1,240	1,502	261	21.1%	431	517	86	20.0%	751	908	156	20.8%
売上総利益	465	582	117	25.2%	190	229	39	20.7%	115	143	28	25.0%	160	209	49	30.7%
<利益率>	19.2%	19.9%	0.6%	-	15.3%	15.3%	△0.0%	-	26.7%	27.8%	1.1%	-	21.3%	23.0%	1.7%	-
営業利益	108	193	84	78.6%	51	78	26	52.0%	39	62	22	57.7%	17	40	22	124.7%
<利益率>	4.5%	6.6%	2.1%	-	4.2%	5.2%	1.0%	-	9.2%	12.1%	2.8%	-	2.4%	4.4%	2.0%	-
製造	33	74	40	121.7%	7	8	1	18.0%	23	39	15	67.7%	3	26	22	664.0%
商社	76	123	46	60.7%	45	70	25	55.9%	16	23	6	40.9%	14	17	2	15.4%

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

ご参考までに、前期第2四半期と当期第2四半期の比較をお示ししています。

各セグメント、増収増益となっております。

連結貸借対照表

- 流動資産は、事業拡大に伴い売掛債権と棚卸資産が増加
- 固定資産は、投資有価証券の時価上昇および事業投資等により増加
- 負債は、買掛債務およびコマーシャル・ペーパーの発行等により増加
- 純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上、その他有価証券評価差額金および為替換算調整勘定等の影響により増加

（億円）

	2026年3月末	2026年9月末	増減額	主な増減
流動資産	5,663	6,394	731	
（現金及び預金）	455	481	25	
（売掛債権）	3,214	3,627	413	
（棚卸資産）	1,775	1,997	221	
固定資産	3,052	3,250	197	
（投資有価証券）	875	997	121	
資産の部合計	8,715	9,644	929	
流動負債	2,970	3,518	548	コマーシャル・ペーパー＋300
（買掛債務）	1,598	1,678	79	
固定負債	1,404	1,436	31	
負債の部合計	4,375	4,955	580	
株主資本	3,138	3,381	242	
その他の包括利益累計額	1,115	1,222	106	その他有価証券評価差額金＋81、為替換算調整勘定＋42
非支配株主持分	85	85	0	
純資産の部合計	4,340	4,689	349	
運転資本	3,391	3,946	555	
自己資本比率	48.8%	47.7%	△1.1%	
有利子負債	1,910	2,305	395	
NET D/Eレシオ	0.34	0.40	0.05	

NAGASE | Delivering next.

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

連結貸借対照表です。

売上増加に伴いまして、運転資本が555億円増加いたしました。当該資本需要を賄うべく、コマーシャル・ペーパーを300億円発行しました。

株主資本の増加に加え、株価の上昇によりまして、投資有価証券評価差額金が81億円、円安によります為替換算で42億円増加し、純資産が349億円増加しております。NET D/Eレシオは0.4倍となりました。

政策保有株式は、上期で53億円売却しました。売却資金は、Prinovaのイリノイ工場の土地取得に充当しています。政策保有株式につきましては、今後も継続して成長投資に合わせて売却を進めてまいります。

連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業CFは208億円のキャッシュアウト。税引前利益433億円に対し、運転資本増加529億円、法人税等支払89億円等による
- 投資CFは61億円のキャッシュアウト。固定資産売却収入47億円、投資有価証券売却収入54億円に対し、有形固定資産取得支出145億円等による
- 財務CFは289億円のキャッシュイン。自己株式取得30億円、配当支払56億円に対し、有利子負債の増加395億円等による

（億円）

	2025年度 2Q累計	2026年度 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	162	△208
（税金等調整前四半期純利益）	212	433
（有形・無形資産償却費）	94	110
（運転資本の増減）	△78	△529
（その他）	△65	△222
投資活動によるキャッシュ・フロー	△357	△61
（固定資産投資）	△348	△170
（その他）	△9	109
フリーキャッシュ・フロー	△194	△270
財務活動によるキャッシュ・フロー	△34	289
（自己株式取得による支出）	△118	△30
（配当金の支払い額）	△54	△63
（借入金・社債の増減）	144	395
（その他）	△6	△12
換算差額	△27	3
現金及び現金同等物の増減額	△256	22

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

連結キャッシュフローです。

事業規模拡大を進め、売上高の増加に伴いまして、運転資本が529億円増加しています。

その影響を受け、営業キャッシュフローはマイナス208億円になりました。現金などにつきましては、2026年9月末時点で22億円増加しております。

2026年度 通期業績見通し(変更あり)

- 第2四半期実績および第3四半期以降の動向を踏まえ、通期業績見通しを上方修正
- 売上高および各段階利益において、過去最高を更新見込み
- 中東情勢による市況高騰、AI半導体需要の確実な取り込み、Prinovaグループの業績改善等による

(億円)

	① 2025年度 実績	② 2026年度見通し 5月7日公表	③ 2026年度見通し 11月6日公表	③ − ② 増減額	③ − ② 増減率	③ − ① 増減額	③ − ① 増減率
売上高	9,727	10,000	10,850	850	8.5%	1,122	11.5%
売上総利益 <利益率>	1,876 19.3%	1,980 19.8%	2,150 19.8%	170 0.0%	8.6% −	273 0.5%	14.6% −
販売費及び一般管理費	1,429	1,530	1,565	35	2.3%	135	9.5%
営業利益 <利益率>	447 4.6%	450 4.5%	585 5.4%	135 0.9%	30.0% −	137 0.8%	30.8% −
(数理差異の償却による退職給付費用影響除く)	450	409	544	134	32.9%	93	20.7%
経常利益	440	450	580	130	28.9%	139	31.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	331	345	480	135	39.1%	148	44.9%
US$レート (期中平均)	@ 150.7	@ 155.0	@ 157.2	@ 2.2	円安	@ 6.5	円安
RMBレート (期中平均)	@ 21.2	@ 22.5	@ 23.4	@ 0.9	円安	@ 2.2	円安
ROE	8.0%	8.0%	10.8%	2.8%	−	2.8%	−
EPS(円)	78.9	84.6	118.2	33.6	39.8%	39.3	49.9%

※ レートが1円円安に変動した場合の営業利益への影響額:US$ +約1億円、RMB +約5億円
(為替感応度は2026年度11月公表見通し時点の前提に基づく試算です。)

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

2026年度の通期見通しになります。

サマリーでもご説明しました通り、通期見通しを上方修正いたします。

売上高は1兆850億円8.5%増、営業利益は585億円30%増、当期純利益は480億円39.1%増に上方修正いたします。創業来初めて売上高1兆円、営業利益で500億円を超える水準となります。ROEは10.8%、EPSは118.2円といたします。

2026年度 セグメント別業績見通し(変更あり)

(億円)

		(参考) 2025年度実績	① 2026年度見通し 5月7日公表	② 2026年度見通し 11月6日公表	②−① 増減額	増減率	
連結合計	売上高	9,727	10,000	10,850	850	8.5%	● 上期の一般管理費は想定通り推移 ● 下期の一般管理費は以下の要因により、上期比で増加 ・ 当初計画通りオフィス移転等の費用が増加 ・ 人件費および研究開発費用等の追加費用を計上見込み ● ROICは利益率向上を背景に各セグメントともに向上
	売上総利益	1,876	1,980	2,150	170	8.6%	
	<利益率>	19.3%	19.8%	19.8%	0.0%	—	
	営業利益	447	450	585	135	30.0%	
	<利益率>	4.6%	4.5%	5.4%	0.9%	—	
	ROIC	5.6%	5.4%	6.7%	1.3%	24.1%	
	EBITDA	643	670	805	135	20.1%	
マテリアル	売上高	4,905	4,955	5,250	295	6.0%	● 上期は以下の要因により想定を上回り推移 ・ 中東情勢の影響による市況高騰を背景に、売上高および利益率が向上 ・ 需給が逼迫する中、サプライチェーンの維持に向けた顧客ニーズへの対応により新規ビジネスを獲得 ● 下期は以下の要因により、上期実績を下回る見通し ・ 上期の中東情勢の影響を除くと事業全体として堅調な推移を見込む ・ 旧正月など稼働日減少による売上高減少を見込む ・ 市況下落による収益性の低下リスクを考慮
	売上総利益	757	776	815	39	5.0%	
	<利益率>	15.4%	15.7%	15.5%	△0.1%	—	
	営業利益	214	196	245	49	25.0%	
	<利益率>	4.4%	4.0%	4.7%	0.7%	—	
	ROIC	7.3%	6.8%	7.7%	0.9%	13.2%	
	EBITDA	254	240	289	49	20.4%	
エレクトロニクス	売上高	1,728	1,750	2,000	250	14.3%	● 上期は以下の要因により想定を上回り推移 ・ 生成AI向けサーバーの需要拡大に伴い、先端半導体向け変性エポキシ樹脂の販売が伸長 ・ グレーターチャイナ向け半導体材料の販売も好調に推移 ● 下期は引き続き事業は好調に推移する一方、人件費等の一般管理費の増加を見込む
	売上総利益	453	479	540	61	12.7%	
	<利益率>	26.2%	27.4%	27.0%	△0.4%	—	
	営業利益	153	144	210	66	45.8%	
	<利益率>	8.9%	8.2%	10.5%	2.3%	—	
	ROIC	18.1%	14.2%	19.1%	4.9%	34.5%	
	EBITDA	192	191	257	66	34.6%	
ライフサイエンス	売上高	3,092	3,294	3,600	306	9.3%	● 上期は以下の要因により想定を上回り推移 ・ PrinovaグループのNutrition事業では、新規ビジネスの獲得等により、収益拡大し、前倒しで黒字化 ・ PrinovaグループのSolutions事業も想定以上に好調に推移 ● 下期は以下の要因により、上期実績を下回る見通し ・ Prinovaグループがクリスマス休暇等による稼働日減少および季節性に加え、一般管理費の増加等により、上期実績を下回る見通し ・ ナガセヴィータは、原材料価格高騰により、売上総利益が減少 ・ その他、製造子会社の定期修繕による利益の減少
	売上総利益	664	724	795	70	9.7%	
	<利益率>	21.5%	22.0%	22.1%	0.1%	—	
	営業利益	86	72	95	23	31.9%	
	<利益率>	2.8%	2.2%	2.6%	0.5%	—	
	ROIC	2.8%	2.7%	3.1%	0.4%	14.8%	
	EBITDA	200	197	220	23	11.7%	

※ 当期より、セグメント業績管理の適正化に伴い、全社共通費用の配賦方法を変更しました。
※ 上表の前期実績及び当期見通しは新基準で記載しております。
※ ROIC:(税引後営業利益(NOPAT)+持分損益+税引後受取配当金)÷投下資本

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

セグメント別の業績見通しになります。

上期は好調に推移いたしましたが、下期は暦上の稼働日数の減少に加えまして、ナフサの下落および需要先取り分の反動を見込んでおり減収となる見通しです。加えまして、オフィス移転等による費用増加を見込み、上期と比較しまして減益の見通しです。

マテリアルセグメントは、先ほどご説明した通り、季節性による売上減少に加えまして、ナフサ市況の軟化に伴う価格の下落とお客様における在庫調整などで、売上減を見込んでおります。

エレクトロニクスセグメントは、上期に引き続き半導体ビジネスが牽引しまして、好調に推移する見通しです。

ライフサイエンスセグメントは、Prinovaのビジネスは例年通りクリスマス休暇による稼働日数の減少および飲料関連ビジネスとNutritionビジネスの季節性の影響によりまして、上期と比較して利益が減少する見込みです。また、ナガセヴィータ、ナガセダイアグノスティックスの定期修繕を下期に計画しており、上期と比較して減益となる見通しです。

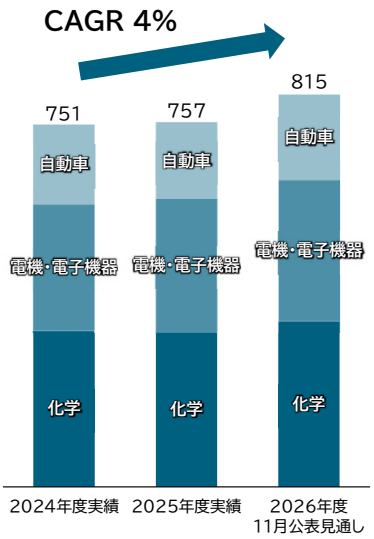
今回から、セグメント別のROICおよびセグメント別のEBITDAを開示しています。今期連結でROIC1.3%、EBITDA135億円改善いたします。

各セグメント 事業別売上総利益

▸ エレクトロニクスセグメントにおいて、半導体事業の割合が拡大

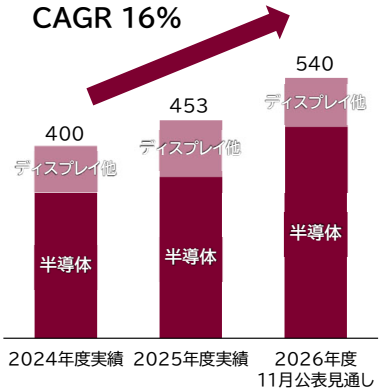
マテリアルセグメント

事業別売上総利益の推移(億円)



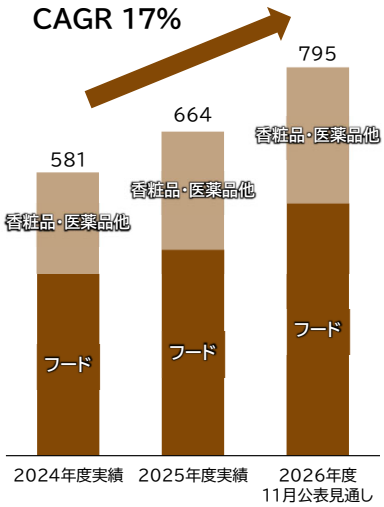
エレクトロニクスセグメント

事業別売上総利益の推移(億円)



ライフサイエンスセグメント

事業別売上総利益の推移(億円)



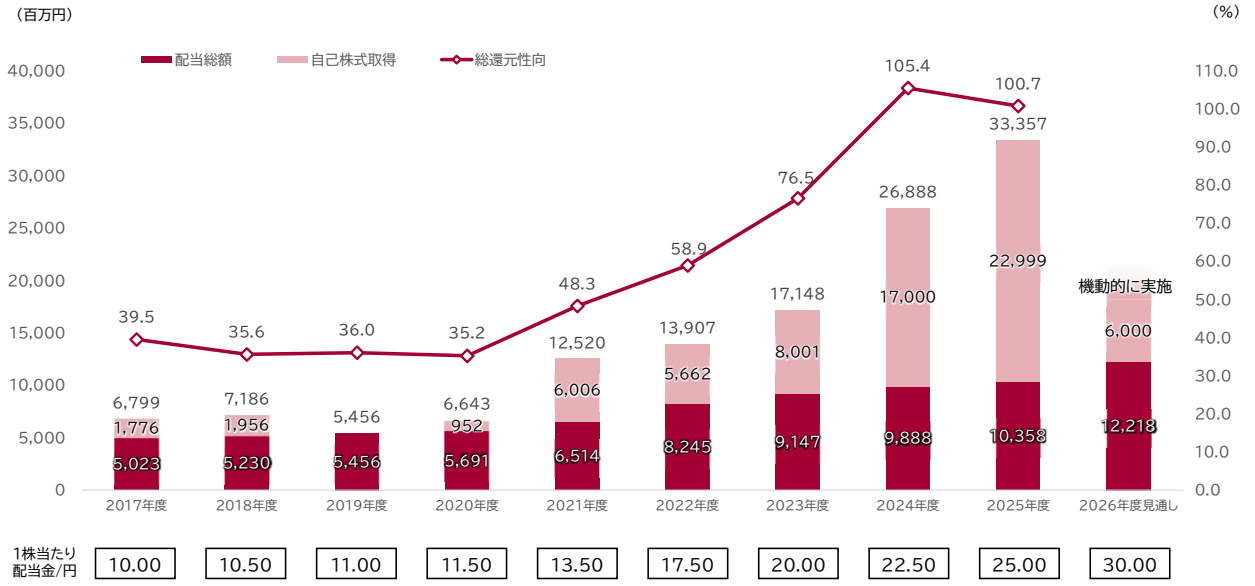
Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

各セグメントの事業別の売上総利益の推移です。

マテリアルセグメントの24年度から26年度のCAGRは4%、エレクトロニクスセグメントは16%、ライフサイエンスセグメントは17%となる見込みです。

株主還元状況

- 1株当たり配当金を当初予定の27円(中間13円、期末14円)から3円増配し、30円(中間15円、期末15円)を予定(17期連続増配見通し)
- 2026年11月に30億円の自己株式取得を決議(期間:2026年11月9日~11月30日を予定)
- 株主還元方針:2028年度までの3ヶ年において継続増配を基本とし、自己株式の取得も機動的に実行(機動的の判断基準:EPS 3ヶ年30%成長)



1株当たり配当金/円	10.00	10.50	11.00	11.50	13.50	17.50	20.00	22.50	25.00	30.00

※ 2026年度の期末配当金は、2027年6月開催予定の第112回定時株主総会に附議予定です。
※ 2026年4月1日付の株式分割(4分割)に伴い、1株当たり配当金は分割遡及修正後の数値を記載しています。

NAGASE | Delivering next.

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

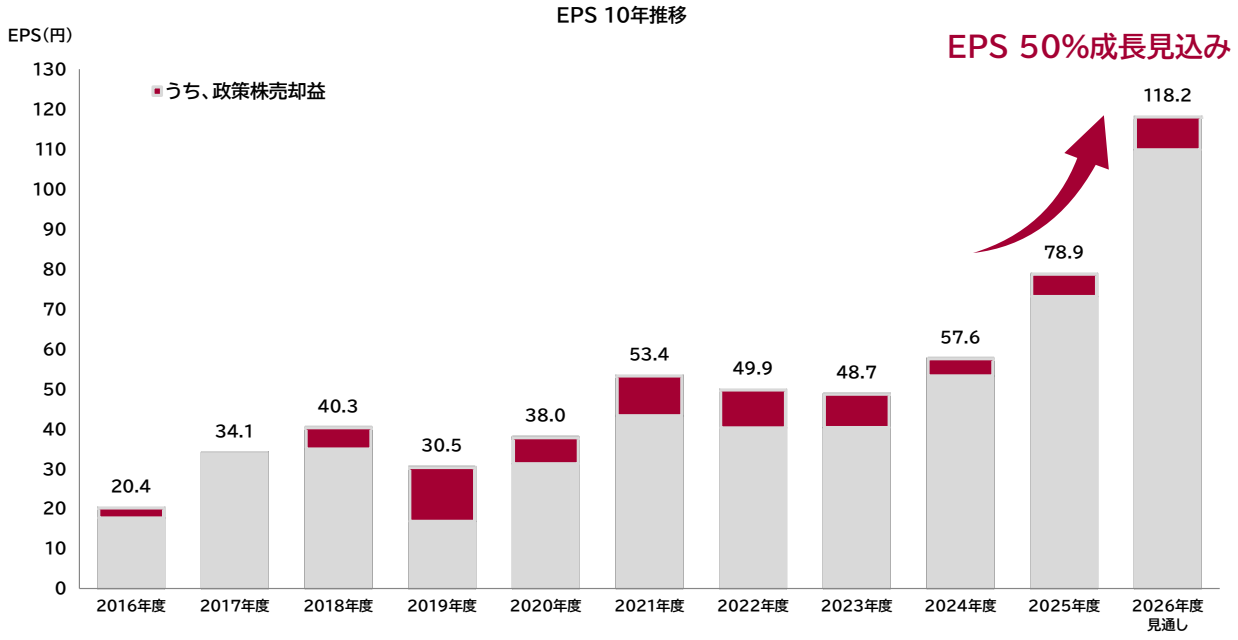
株主還元状況です。

11月6日の取締役会で、自社株式取得30億円および3円の増配を決議し公表いたしました。

年間配当は30円の見通しです。17期連続増配になります。

EPSの推移

- 2026年度118.2円見込み（2025年度比50%成長見込み）
- 中期経営計画の目標（3年間で30%成長）に到達する見込みの為、通期実績を踏まえ2027年5月に目標を更新予定



Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

今回から新たにEPSの推移を掲載いたします。

赤色の部分が、政策保有株式の売却益によるEPS増加分となります。

中期経営計画では、EPS30%成長を掲げていましたが、見通しベースで今期EPS118.2円となり、約50%の成長を見込んでおります。政策保有株式売却益を除いた成長率も50%の成長となります。

トピックス

■ 半導体事業の成長 =先端半導体向け封止材(LMC & a-SMC)= P20
■ Prinovaグループの事業改善 P21
■ 新素材開発を加速 =米国サンディエゴにバイオ研究所を開設= P22
■ ナガセフードソリューションズ 始動 P23
■ CVC活動の継続・拡大 = 2号ファンド設立を決定= P24
■ 不採算事業の整理・改善 P25
■ グレーターチャイナおよびASEANの地域統括会社を設立 P26

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

こちらから7つのトピックスについてご説明をさせていただきます。

エレクトロニクス

半導体事業の成長 =先端半導体向け封止材(LMC & a-SMC)=

▸ 先端半導体向けビジネスとして、現在の収益の柱である半導体パッケージ用液状封止材“LMC”に加え、高機能ICパッケージ基板用シート状封止材“a-SMC”を2本目の柱とする

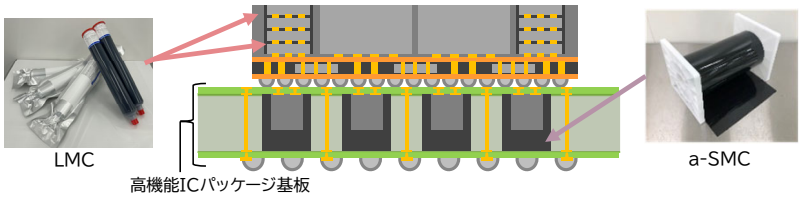
LMC(液状封止材)

・ナガセケムテックスが長年培ってきた技術を進化させて開発した先端半導体向けの液状封止材
・「反り制御」「充填性」「信頼性」の強みを活かし、先端半導体の量産プロセスにおける業界標準(デファクトスタンダード)の地位を確立
・次世代プロセスにおいても、顧客技術陣と仕様策定の初期段階から深く連携
・認定に年単位を要する材料特性により、一度採用されると極めて強固な地位を維持

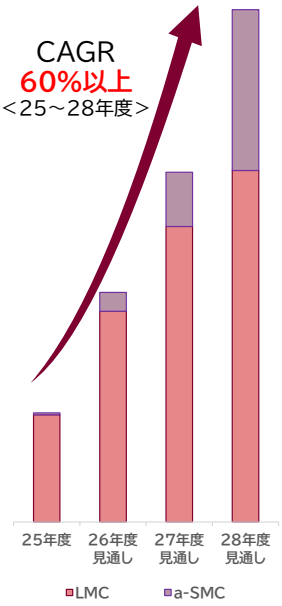
a-SMC(シート状封止材)

・ナガセケムテックスが開発した、高機能ICパッケージ基板向けの新たなシート状封止材
・新たな業界標準(デファクトスタンダード)となることを目指し、同基板へ新規採用
・2027年度の本格商用化を通じ、事業の持続的な収益成長を牽引する新たな柱への育成が目標
・2028年度の先端半導体分野における同基板の急速な普及をテコに、本材料の販売拡大を目指す

＜採用例＞



ナガセケムテックスグループにおける
LMC / a-SMCの売上高推移



Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

まず1つ目が、半導体事業についてでございます。

グループ会社のナガセケムテックスが製造する変性エポキシ樹脂のLMCは、生成AIなどの先端半導体のロジック・メモリ向けのパッケージにおいて、デファクトスタンダードとなっています。GPU、CPU並びにHBMなどに採用されており、今期も2桁成長をいたします。

加えまして、新製品のa-SMCは今後2030年をめどにLMCと同等以上の規模へ成長させていきます。すでに半導体の高機能ICパッケージ基板への採用が決定しておりまして、量産を開始しております。LMCとa-SMC、これら封止材の合計で、2025年度から2028年度にかけまして、CAGRで60%以上の成長を目指しております。

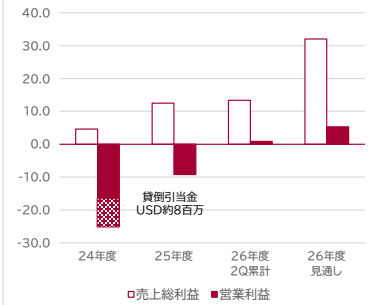
ライフサイエンス

Prinovaグループの事業改善

▸ Nutrition事業の黒字化に加え、米国Flavors事業を売却し、Prinovaの収益と資本効率が向上

1 Prinova Nutrition 業績改善(黒字化)

単位:USD百万



原価低減を実行
- 人員体制の最適化
- 原料調達・サプライチェーンの合理化
- 製造工程の見直し・自動化

トップライン改善を実行
- 営業体制再構築・人材獲得
- 製品開発体制の強化
- スティックパック等の拡充

USD百万

	FY24	FY25	FY26 2Q累計	FY26 見通し
売上総利益	4.6	12.5	13.4	32.0
営業利益	-25.0	-9.2	0.9	5.8

2 Flavors事業の売却 (資本効率の改善)

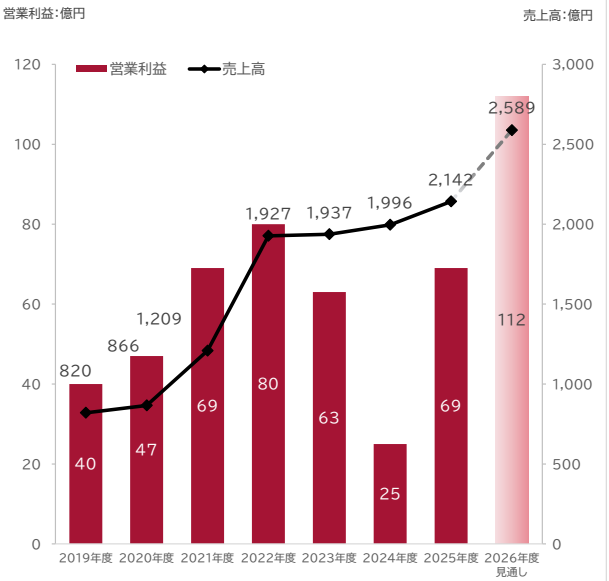
2026年5月、米国フレーバー事業を、フレーバー・原料・乳製品を手掛けるグローバル企業Carbery GroupのフレーバーBU部門であるSynergy Flavors社へ売却。

目的
ポートフォリオ最適化に向け、事業を譲渡。
Solutions事業、Nutrition事業等にリソース投下。

3 イリノイ工場 新規土地取得

北米生産拠点を拡張し、生産能力を強化。

4 Prinovaグループ 業績推移と見通し



※買収した2019年度の連結期間は5ヶ月間ですが、本グラフの2019年度数値は年間実績を示しております

※ Prinovaグループは12月決算(1月～12月)となり、当社連結決算に3ヵ月期ズレで取り込んでおります。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

次に、Prinovaグループの事業改善についてご説明させていただきます。

2019年度に買収しましたPrinovaは、当時営業利益で40億円程度でした。今期100億円を超える規模に成長拡大しております。2023年度から25年度にかけて営業赤字となっておりましたNutrition事業については製造ラインの自動化、原価低減、営業体制の見直しなどを行い、1年間前倒しで黒字化を達成いたしました。

Solutions事業につきましては、高級ペットフードやスーパーグミなどの新規ビジネスを立ち上げまして、売上・利益ともに拡大しています。今後の需要に備えまして、北米生産拠点の拡大に向け投資を実行してまいります。また、資産の入替えを進めておりまして、フレーバー事業を売却いたしました。

ライフサイエンス

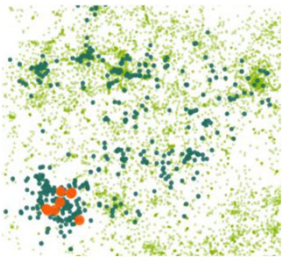
新素材開発を加速　＝米国サンディエゴにバイオ研究所を開設＝

▶ 最先端のAI・ロボティクスを活用し、研究による新規素材開発を飛躍的に加速

2026年1月開設　IFC Biotechnology Innovation Center（IBIC）

・最先端の**AI・ロボティクス**を活用し、グループのバイオ研究を**飛躍的にスピードアップ**
・微生物・酵素の探索から評価・開発までのサイクルを効率化
・NAGASEグループの製造能力と組み合わせ、持続可能な素材をグローバルに提供






NAGASEグループのバイオ企業との連携

ナガセヴィータ、ナガセダイアグノスティックスおよびナガセバイオイノベーションセンターとの連携により、ライフサイエンス市場向けの新規素材開発を加速

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

次に、2026年1月にサンディエゴに開設しましたバイオ研究所についてご説明をさせていただきます。

最先端のAI・ロボティクスの技術を活用しまして、グループ研究におけるスクリーニングの速度を約1,000倍に加速していきたいと考えております。

本研究所は、ナガセヴィータ、ナガセダイアグノスティックス、ナガセバイオイノベーションセンターと連携しまして、さらなる新規素材開発を進めてまいります。また、北米にありますので、この拠点を活用し、北米独自のテーマの探索ならびに製品開発も進めてまいります。

ライフサイエンス

ナガセフードソリューションズ　始動

- 長瀬産業、ナガセヴィータ、ナガセサンバイオの食品販売事業を統合（2026年7月～）
- 単なる原料供給にとどまらず、素材選定から用途提案、処方設計に至る課題解決型ソリューションをワンストップで提供

NAGASE
長瀬産業株式会社
フードイングリディエンツ部
- ✓ ソーシング力
- ✓ グローバルネットワーク
- ✓ 顧客ネットワーク

×

Nagase Viita
ナガセヴィータ株式会社
フードシステムソリューションズ部門
- ✓ 価値提供力
- ✓ 独自素材の豊富なラインナップ
- ✓ 顧客ネットワーク

×

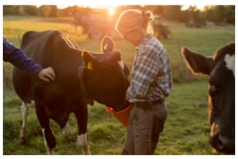
NAGASE
ナガセサンバイオ株式会社
- ✓ アグリ・フィード領域の提案力
- ✓ 顧客ネットワーク
- ✓ 食料ｼｽﾃﾑへの幅広い提案力

食品関連市場においてトータルソリューションを提供

ナガセフードソリューションズ株式会社

【会社概要】
社名：ナガセフードソリューションズ株式会社
代表者：代表取締役社長　齊藤　真人
本社所在地：東京都中央区日本橋小舟町5－1
従業員：156名
事業概要：食品原料、健康食品原料、酵素、畜水産飼料及び農業関連資材等の販売





NAGASE | Delivering next.
Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

次に、ナガセフードソリューションズ株式会社についてご説明をさせていただきます。

2026年7月に農業・飼料関連資材の販売を手がけてきましたナガセサンバイオに長瀬産業のフードイングリディエンツ部、ナガセヴィータの食品営業部隊を統合し、ナガセフードソリューションズ株式会社を設立いたしました。各社の持つ強みを活かし、食品関連市場においてトータルソリューションを提供してまいります。

中期経営計画Walk the Talk 2028におきましては、成長戦略に「食品業界における原料を起点としたソリューション提案」を掲げておりますが、ナガセフードソリューションズがその中心を担ってまいります。

CVC活動の継続・拡大 ＝2号ファンド設立を決定＝

- 1号ファンドの実績を基盤に、新領域・新技術の獲得をさらに加速
- 2号ファンドの設立を決定⇒今後海外投資の比率を拡大

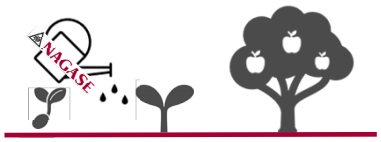
1号ファンド　組成総額　32億円　投資実績　20件

MORGENROT / HIGHRESO / aia / Tent / flora / dodai E-mobility for Africa / enstem / Meta sensing / Piezo Sonic / NexaScience / provigate / SPACE SHIFT / m2LABO / CRAIF / 株式会社 坂ノ途中 / A10 Lab / KINS / atomis

＜投資領域＞
データセンター
バイオ
ヘルスケア
アグリ
モビリティ etc.

2号ファンド

組成総額	28億円
組成理由	グローバル探索をさらに加速し、海外投資の比率を拡大
運用体制	・CVC子会社を通じた機動的な意思決定プロセスを継続 ・中長期的な視点に基づく、一貫した次世代事業の創出を推進



- ビジネスインテリジェンス
- 未知の事業領域探索
- 将来の新規事業へ

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

次に、CVCについてでございます。

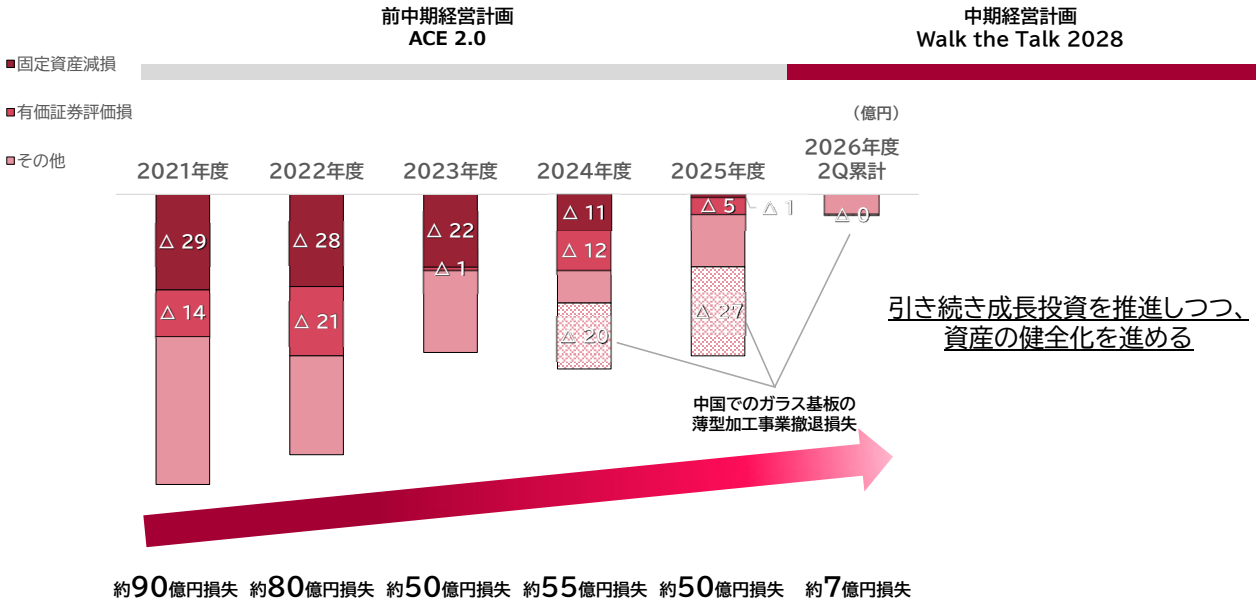
Nagase Future Investmentsが、CVCの1号ファンドを2025年に組成し、現在までに20件の投資を進めてきました。

さらに今回、2号ファンドを総額28億円で組成いたします。2号ファンドは1号ファンドと異なり、グローバルな投資先をさらに探索しまして海外投資の割合を拡大してまいります。投資領域としましては、ナガセが将来ターゲットとする領域、データセンター、バイオ、ヘルスケア、アグリ、モビリティを特定領域として投資を進めてまいります。

不採算事業の整理・改善

- 前中期経営計画 **ACE 2.0** において、改善の見込めない事業、取引からは撤退、商権返上を実施し、損失額を削減
- 中国におけるガラス基板の薄型加工事業撤退は今期完了見込み

【事業子会社の営業損失、持分法損失、減損損失、不採算取引の金額規模】



Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

前中期経営計画から示しております不採算事業の状況でございます。

2021年度から2022年度にかけまして、80億円以上の損失があった不採算事業の整理を進め、当第2四半期では約7億円まで減少させております。

2024年度から25年度にかけまして、撤退損失として20億円、27億円を計上しました中国でのガラス基板の薄型加工事業は、当期で撤退完了の見込みです。引き続き成長投資を推進しつつ、資産の健全化を進めてまいります。

グレーターチャイナおよびASEANの地域統括会社を設立

- 新会社の取締役会には、本社経営陣を非常勤取締役として派遣
- 国内から海外へ、改革に耐えうる土台づくり、体質変換、マインドセットをグループ全体へ加速する
- 地域起点の事業創出と経営基盤を強化

外部環境の認識と新会社の概要

外部環境の認識

- 相互に影響を及ぼしながら大きな市場を形成しつつあるエリア
- 中国ロボティクス、アジア半導体など、巨大ビジネス機会
- 新市場の台頭、現地パートナー連携の多様化

新会社の概要

NAGASE (ASIA PACIFIC) LIMITED

所在地	：香港
資本金	：100万HKD (100%出資)
事業内容	：地域統括、経営管理・経営企画
設立	：2026年11月設立

エリア経営戦略の推進

経営基盤の強靭化

地域横断の経営管理体制を構築
ガバナンスとコンプライアンスを強化し
成長に伴う新たなリスクに対応

意思決定・資源投入の迅速化

新会社へ権限委譲、現場感を持った
スピーディな経営判断と資源投下

地域起点の事業創出

地域特有の事業機会の発掘、新市場の開拓と
現地パートナーとの戦略的連携を推進

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

最後に、地域統括会社の設立についてご説明をいたします。

グレーターチャイナとASEANを1つのエリアとして経営統合いたします。それにあたり、11月5日に地域統括会社を香港に設立いたしました。

グレーターチャイナとASEAN諸国は相互に影響を及ぼしながら大きな市場に形成されつつあります。中国のロボティクスやアジアでの半導体市場など、巨大なビジネスの機会を取りこぼさないように、また、中央アジアを始めとする新たなエリアへの進出を今後進めていくためにも、現地での意思決定をスピーディに行っていきたいと考えています。

新会社の非常勤取締役には私も含めまして本社の執行取締役が入り、今までにないスケールとスピードでエリアの成長にチャレンジしてまいります。

以上で説明を終了させていただきます。

ご清聴いただき、誠にありがとうございました。

経営理念



誠実正道

社会の構成員たることを自覚し、
誠実に正道を歩む活動により、
社会が求める製品とサービスを提供し、
会社の発展を通じて、
社員の福祉の向上と社会への貢献に努める

NAGASE | Delivering next.

NAGASE | Delivering next.

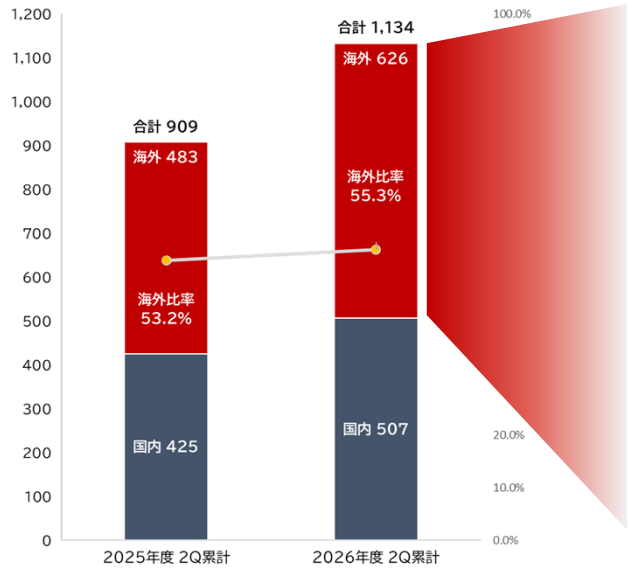
株主・投資家向け会社案内（初回対話の方向け）
https://www.nagase.co.jp/ir/library/pdf/factbooks/20260826-1.pdf
当社ウェブサイト　投資家情報ページ
https://www.nagase.co.jp/ir/
お問合せはこちらから
https://www.nagase.co.jp/contact/

当プレゼンテーション資料には、2026年11月6日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

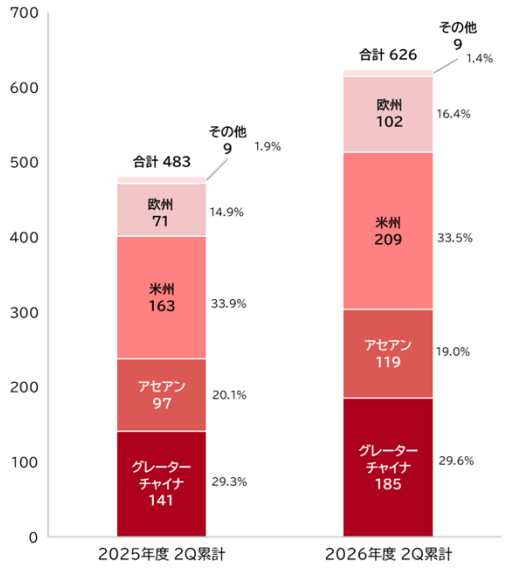
所在地別 売上総利益

国内・海外売上総利益(億円)



※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含んでおります。

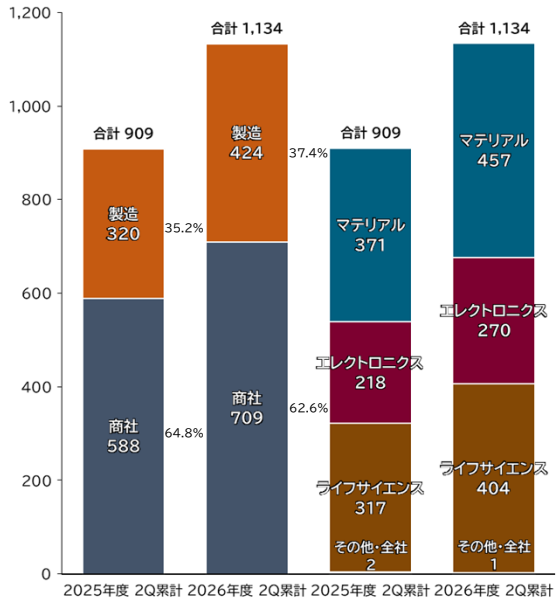
海外売上総利益の地域別内訳(億円)



Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

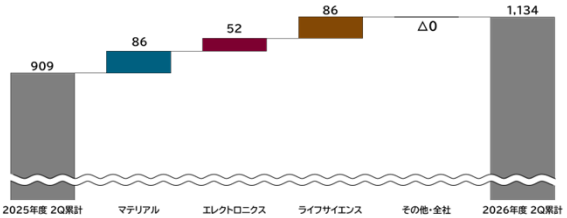
業態・セグメント別売上総利益 2期比較

業態・セグメント別 売上総利益(億円)

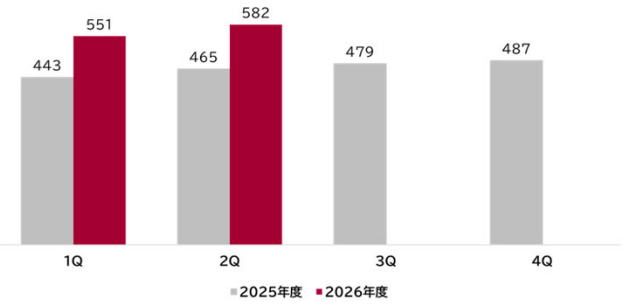


※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメント別 売上総利益 増減(億円)



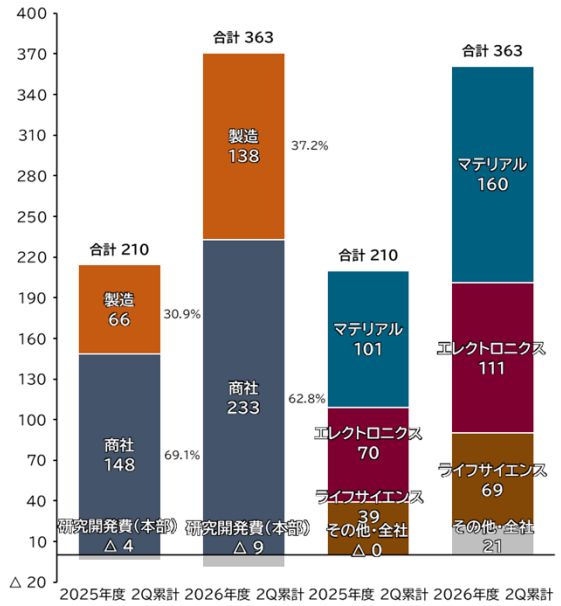
売上総利益 四半期推移(億円)



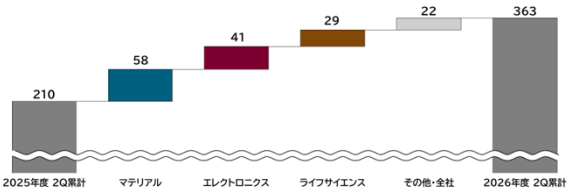
Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

業態・セグメント別営業利益 2期比較

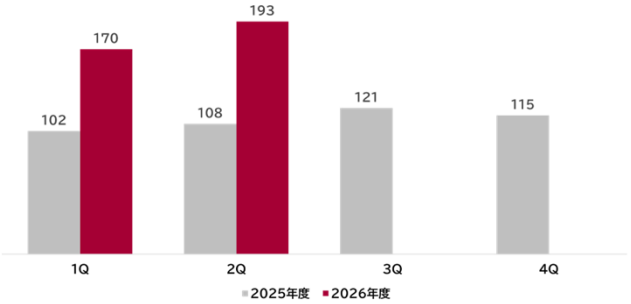
業態・セグメント別 営業利益(億円)



セグメント別 営業利益 増減(億円)



営業利益 四半期推移(億円)



※ 業態別構成比の計算には、研究開発費(本部)を含めておりません。
※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。
※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	2Q累計	前期比
売上高	当期	2,797	2,928	5,725	119%
	前期	2,373	2,424	4,797	
	増減額	424	504	928	
売上総利益	当期	551	582	1,134	125%
	前期	443	465	909	
	増減額	108	117	225	
<利益率>	当期	19.7%	19.9%	19.8%	
	前期	18.7%	19.2%	19.0%	
製造	当期	203	221	424	133%
	前期	151	168	320	
商社	当期	347	361	709	121%
	前期	291	296	588	
営業利益	当期	170	193	363	172%
	前期	102	108	210	
	増減額	67	84	152	
<利益率>	当期	6.1%	6.6%	6.3%	
	前期	4.3%	4.5%	4.4%	
製造	当期	63	74	138	208%
	前期	32	33	66	
商社	当期	110	123	233	157%
	前期	72	76	148	

※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

セグメント概況 マテリアル

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	2Q累計	通期見通し（2026年11月公表） 25年度実績	進捗率
売上高	当期	1,403	1,502			2,905	5,250	55%
	前期	1,189	1,240	1,239	1,236	2,429	4,905	
	増減額	214	261			475	344	
売上総利益	当期	228	229			457	815	56%
	前期	181	190	191	194	371	757	
	増減額	47	39			86	57	
<利益率>	当期	16.3%	15.3%			15.8%	15.5%	
	前期	15.2%	15.3%	15.4%	15.8%	15.3%	15.4%	
製造	当期	30	31			62		
	前期	24	26	27	25	50	104	
商社	当期	197	197			395		
	前期	156	163	163	168	320	653	
営業利益	当期	81	78			160	245	65%
	前期	50	51	53	59	101	214	
	増減額	31	26			58	30	
<利益率>	当期	5.8%	5.2%			5.5%	4.7%	
	前期	4.2%	4.2%	4.3%	4.8%	4.2%	4.4%	
製造	当期	11	8			19		
	前期	6	7	8	7	14	30	
商社	当期	71	70			142		
	前期	44	45	46	52	90	189	

※ 当期より、新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。
※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

事業別売上総利益の推移
（億円）



2026年度
11月公表見通し

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

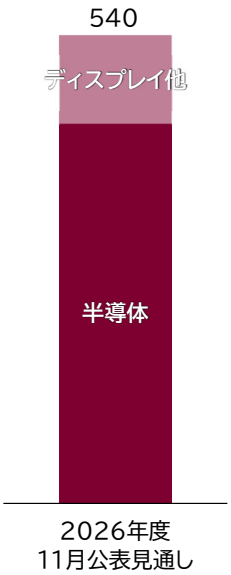
セグメント概況 エレクトロニクス

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	2Q累計	通期見通し（2026年11月公表） 25年度実績	進捗率
売上高	当期	491	517			1,009	2,000	50%
	前期	415	431	442	439	846	1,728	
	増減額	76	86			162	271	
売上総利益	当期	127	143			270	540	50%
	前期	103	115	120	114	218	453	
	増減額	24	28			52	86	
<利益率>	当期	25.9%	27.8%			26.8%	27.0%	
	前期	24.8%	26.7%	27.3%	26.0%	25.8%	26.2%	
製造	当期	73	86			159		
	前期	53	66	71	69	120	261	
商社	当期	53	57			110		
	前期	49	48	49	44	97	191	
営業利益	当期	49	62			111	210	53%
	前期	30	39	46	36	70	153	
	増減額	18	22			41	56	
<利益率>	当期	10.0%	12.1%			11.1%	10.5%	
	前期	7.4%	9.2%	10.6%	8.3%	8.3%	8.9%	
製造	当期	29	39			68		
	前期	16	23	28	21	40	90	
商社	当期	20	23			44		
	前期	14	16	18	15	31	65	

※ 当期より、新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。
※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

事業別売上総利益の推移
（億円）



Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

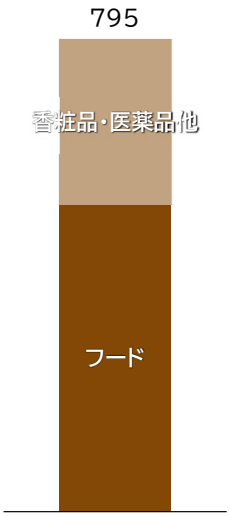
セグメント概況 ライフサイエンス

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	2Q累計	通期見通し（2026年11月公表） 25年度実績	進捗率
売上高	当期	902	908			1,810	3,600	50%
	前期	768	751	760	810	1,520	3,092	
	増減額	133	156			290	507	
売上総利益	当期	195	209			404	795	51%
	前期	157	160	167	179	317	664	
	増減額	37	49			86	130	
<利益率>	当期	21.6%	23.0%			22.3%	22.1%	
	前期	20.5%	21.3%	22.0%	22.1%	20.9%	21.5%	
製造	当期	98	103			202		
	前期	73	75	83	90	149	322	
商社	当期	96	105			201		
	前期	84	84	84	88	168	341	
営業利益	当期	29	40			69	95	73%
	前期	21	17	21	25	39	86	
	増減額	7	22			29	8	
<利益率>	当期	3.2%	4.4%			3.8%	2.6%	
	前期	2.8%	2.4%	2.8%	3.2%	2.6%	2.8%	
製造	当期	22	26			49		
	前期	9	3	12	18	12	43	
商社	当期	8	17			25		
	前期	12	14	9	9	27	46	

※ 当期より、新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。
※ 当期より、製造および商社の算定方法を変更しております。詳細は目次ページをご確認ください。

事業別売上総利益の推移
（億円）



Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

2026年度 主要製造子会社の業績見通し(変更あり)

(億円)

		(参考)	①	②	② − ①		
		2025年度実績	公表見通し 2026年5月公表	公表見通し 2026年11月公表	増減額	増減率	
ナガセケムテックスグループ	売上高	425	423	546	123	29%	● 上期は、生成AIサーバーの需要拡大に伴い、メモリ含む先端半導体向け変性エポキシ樹脂の販売が伸長 ● 下期も引き続き事業は好調にする一方、人件費等の一般管理費の増加を見込む
	売上総利益	212	153	278	125	82%	
	<利益率>	49.9%	36.2%	50.9%	14.7%	−	
	営業利益	74	60	121	61	102%	
	<利益率>	17.5%	14.2%	22.2%	8.0%	−	
ナガセヴィータ	売上高	386	350	395	45	13%	● 上期は、原材料の価格上昇があったものの、海外向け食品素材等の販売増加によりカバーし、前期並みで推移 ● 下期は、原材料の価格上昇および定期修繕の影響等により、上期を下回る見込み
	売上総利益	179	136	169	33	24%	
	<利益率>	46.5%	38.9%	42.8%	3.9%	−	
	営業利益	67	51	62	11	22%	
	<利益率>	17.6%	14.6%	15.7%	1.1%	−	
	のれん等償却費	18	18	18	0	−	
	償却費負担後営業利益	49	32	43	11	34%	
Prinovaグループ	売上高	2,142	2,420	2,589	169	7%	● 上期は以下の要因により想定を上回り推移 ・ Nutrition事業が新規ビジネスの獲得等により収益拡大し、前倒しで黒字化 ・ Solutions事業も想定以上に好調に推移 ● 下期はクリスマス休暇等による稼働日減少ならびに季節性に加え一般管理費の増加等により、上期実績を下回る見通し
	売上総利益	348	406	456	50	12%	
	<利益率>	16.3%	16.8%	17.6%	0.8%	−	
	営業利益	69	80	112	32	40%	
	<利益率>	3.3%	3.3%	4.3%	1.0%	−	
	のれん等償却費	27	28	28	0	2%	
	償却費負担後営業利益	42	51	83	31	61%	

※ 当期より、ナガセケムテックスグループの数値について、ナガセケムテックス、Nagase ChemteX (Wuxi) Corp.および、Nagase ChemteX America LLC、加えてナガセケムテックスグループ製品の販売に伴う利益を含めて算定しております。これに伴い、比較情報として表示している前期実績についても、同様の基準に基づき組み替えて表示しております。
※ 当期よりナガセヴィータ製品の販売に伴う利益を製造業の利益に含めて算定しております。これに伴い、比較情報として表示している前期実績についても、同様の基準に基づき組み替えて表示しております。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

主要製造子会社概況 =ナガセケムテックスグループ=

- 売上総利益は前期比38億円の増益。営業利益は前期比29億円の増益
  - 変性エポキシ樹脂販売は営業利益が全体として増益。モバイル機器向けシート材料の販売が減少したが、AI半導体(ロジック・メモリ)向けLMCの販売増加による。a-SMCは先端半導体向け高機能ICパッケージ基板用封止材として採用され、少量量産を開始
  - フォトリソ材料販売は営業利益が増益。売上高は前期並みだが、効率化推進によるコスト削減が貢献

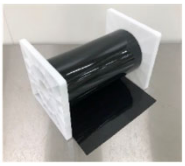
(億円)

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	2Q累計	通期見通し(2026年11月公表) 25年度実績	進捗率
売上高	当期	132	141			273	546	50%
	前期	101	105	109	108	207	425	
	増減額	30	36			66	120	
売上総利益	当期	67	74			142	278	51%
	前期	50	53	53	54	104	212	
	増減額	17	20			38	65	
<利益率>	当期	51.5%	52.6%			52.1%	50.9%	
	前期	49.7%	50.8%	48.6%	50.5%	50.3%	49.9%	
営業利益	当期	31	35			67	121	55%
	前期	18	19	19	17	37	74	
	増減額	13	16			29	46	
<利益率>	当期	23.7%	25.3%			24.5%	22.2%	
	前期	17.8%	18.6%	17.7%	16.1%	18.2%	17.5%	

※ 当期より、ナガセケムテックスグループの数値について、ナガセケムテックス、Nagase ChemteX (Wuxi) Corp.および、Nagase ChemteX America LLC、加えてナガセケムテックスグループ製品の販売に伴う利益を含めて算定しております。これに伴い、比較情報として表示している前期実績についても、同様の基準に基づき組み替えて表示しております。



LMC: Liquid Molding Compound



a-SMC: Advanced Sheet Molding Compound

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

主要製造子会社概況 ＝ナガセヴィータ＝

- 売上総利益および営業利益は前期並み
  - 食品素材販売は営業利益が減益。数量が前期並みである一方、原材料の価格上昇による
  - 香粧品素材販売は営業利益が増益。海外での販売数量が増加したことによる

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	2Q累計	通期見通し（2026年11月公表） 25年度実績	進捗率
売上高	当期	105	101			206	395	52%
	前期	96	94	101	94	190	386	
	増減額	8	7			16	8	
売上総利益	当期	49	45			94	169	56%
	前期	45	44	47	42	89	179	
	増減額	4	0			5	△10	
<利益率>	当期	47.1%	44.5%			45.8%	42.8%	
	前期	47.1%	46.9%	46.9%	45.0%	47.0%	46.5%	
営業利益	当期	19	15			35	62	57%
	前期	17	15	18	15	33	67	
	増減額	1	0			1	△5	
<利益率>	当期	18.8%	15.1%			17.0%	15.7%	
	前期	18.6%	16.8%	18.5%	16.3%	17.7%	17.6%	
のれん等償却費	当期	4	4			9	18	
	前期	4	4	4	4	9	18	
	増減額	0	0			0	0	
償却費負担後営業利益	当期	15	10			25	43	59%
	前期	13	11	14	10	24	49	
	増減額	1	0			1	△5	

※ 当期よりナガセヴィータ製品の販売に伴う利益を製造業の利益に含めて算定しております。これに伴い、比較情報として表示している前期実績についても、同様の基準に基づき組み替えて表示しております。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.

主要製造子会社概況 =Prinovaグループ=

- 売上総利益は前期比64億円の増益。営業利益は前期比26億円の増益
  - 製造業は営業利益が増益。Solutions事業の用途拡大等による販売増加に加え、Nutrition事業の販売増加による黒字化による
  - 商社業は営業利益が前期並み。食品素材の売上高、売上総利益は増加したものの、物流コスト等の販管費増加による

（億円）

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	2Q累計	通期見通し（2026年11月公表） 25年度実績	進捗率
売上高	当期	641	639			1,280	2,589	49%
	前期	539	530	514	557	1,070	2,142	
	増減額	101	108			210	446	
売上総利益	当期	105	127			232	456	51%
	前期	82	86	84	95	168	348	
	増減額	23	41			64	107	
<利益率>	当期	16.4%	20.0%			18.2%	17.6%	
	前期	15.2%	16.2%	16.5%	17.2%	15.7%	16.3%	
製造	当期	36	45			82		
	前期	23	24	26	35	47	109	
商社	当期	68	82			150		
	前期	58	61	58	60	120	239	
営業利益	当期	22	39			62	112	56%
	前期	16	19	15	18	36	69	
	増減額	5	20			26	42	
<利益率>	当期	3.6%	6.2%			4.9%	4.3%	
	前期	3.1%	3.6%	3.0%	3.3%	3.4%	3.3%	
製造	当期	9	16			25		
	前期	0	△1	3	10	△0	13	
商社	当期	13	23			36		
	前期	15	20	12	7	36	56	
のれん等償却費	当期	6	6			13	28	
	前期	6	6	6	7	13	27	
	増減額	△0	0			△0	1	
償却費負担後営業利益	当期	16	32			48	83	58%
	前期	9	12	8	11	22	42	
	増減額	6	20			26	40	
製造	当期	5	12			18		
	前期	△3	△5	△0	6	△8	△2	
商社	当期	10	19			30		
	前期	13	17	9	4	31	45	

※ 当期よりPrinovaグループの売上総利益と営業利益を「製造業」「商社業」に区分開示しております。 詳細は目次ページをご確認ください。

Copyright © 2026 NAGASE & CO., LTD.